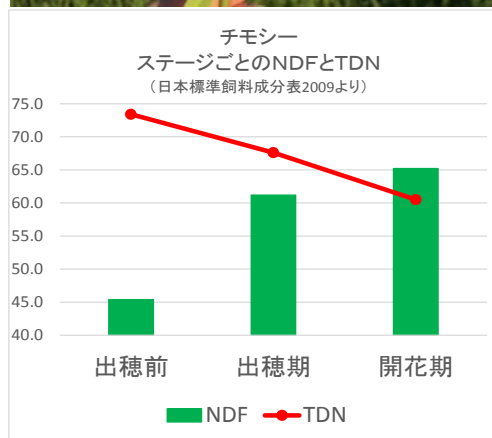


あしよろ・ハードサポート通信

足寄町内でも牧草収穫が始まりました。嗜好性がよく栄養価が充実していて、食い込んでくれる粗飼料を収穫できたなら、この先1年間の生乳生産の大きな支えになります。今月は、収穫シーズンを迎えたこの時期に気を付けたいポイントをまとめていきます。



サイレージ発酵品質は嗜好性を決める
セニ含量は食い込める限界を決める

◆ 刈り取り適期・・・出穂期（しゅっすいき）

チモシーの場合、止め葉（写真の矢印の葉）よりも穂が出たタイミングが「出穂期」です。圃場で4～5割のチモシーが出穂し始めたときに収穫開始のめやすになります。

このステージのチモシーは栄養価が高く、セニ量も適切で、よく食べる粗飼料になります。また、この時期の原料草は糖分が高く、良質サイレージ発酵への後押しをしてくれます。

刈り遅れずに適期収穫を

牧草のセニ含量は、生育が進むにつれて増えていきます。2段目のグラフはチモシーの生育ステージごとのセニ量（NDF）とエネルギー価（TDN）を表しています。

出穂前から開花期に向けて緑色の NDF は高くなり、NDF が多くなるにつれて赤線の TDN は落ちていきます。

刈り遅れた粗飼料の仕上がりはバキバキに堅くて、あまり食べてくれません。NDF が高く TDN が低い刈り遅れ牧草は、より多くの栄養が必要な泌乳牛には向かないエサです。酪農家の皆さまは、経験的にご理解されているところだと思います。

◆ サイレージの採食量を左右するのは 発酵品質とセニ含量

・発酵品質がよいときは牛の嗜好性もよく、ツナギににおいが残るほど悪い発酵のときは牛の嗜好性も悪くなります。

・セニ含量は、食い込める限界を決めます。泌乳牛の主食にする粗飼料のセニは低めに調整するべきで、そこから生産アップ、コストダウンへとつながっていきます。

◆ サイレージ発酵品質に関わるポイント

・刈り取り高の設定---近年、刈り取り高は約 10 cmが推奨されるようになりました。土砂や堆肥を巻き込みづらいのでよい発酵品質が期待されること、2番草の再生がよいことなどが理由です。原料草が乾きやすいとも言われています。



・水分調整(予乾)---きざみサイレージでは、水分 75%以下を目指します。75%以上の高水分サイレージは、乳酸や酢酸などの発酵酸の影響で採食量が落ちることがわかっています。また高水分調整では、牛が利用しづらいアンモニアが多く、発酵品質が悪いサイレージに仕上がるリスクが高まってしまいます。

きざみサイレージであれば半日程度の予乾で充分と言われてはいますが、天気に大きく左右されるので本当に難しいところです。水分調整のコツとして、高刈りする、倒した後に一晩広げておき翌朝に集草する、ウインドローを幅広で低く仕上げる、施肥を見直す、などがあります。

・詰め込み・鎮圧---きざみサイレージの場合、原料草の十分な鎮圧が求められます。踏み手のタイヤショベルの作業力に見合うダンプの台数で運び、しっかりと鎮圧しながら密度を高め、空気を押し出し、詰め込み後はすばやく密封します。

さいごに、良質な粗飼料の収穫のためには、施肥や植生は欠かせない項目です。どの畑にはどんな草がどのように生えているかをしっかりチェックし、来シーズンの施肥、追播、更新などへの検討材料としていただきたいと思います。

しばらく続く収穫シーズン、くれぐれも事故のないようにお願いいたします。

久富

連絡先 ・JA 営農部

・村上：(携帯) 090-6264-6571、(Email) murakami@herdsupport.com

・久富： (Email) hisatomi@herdsupport.com

・ハードサポート(株)：(FAX) 011-261-8101

7月の足寄での業務予定日

村上：7/10, 16, 17, 21, 22 久富：7/1, 2, 3, 13, 17, 21, 27, 28, 29, 30

※日程変更になることもありますが、ご了承ください。